essais こころみ 2023年3月

2023年3月1日(水) 晴

月曜から晴れ続き。今日はいっきに春めきそう、気温は18℃まで上がるとか。こうなると暗い色はおもたく見える。だからか今朝、白色を着た人を続けて見た、わたしもそうだけど。

一 徴候 一

今年もはや三月。新年も二ヶ月がすぎ、そろそろ自分にとっての今年の傾向が出ててくる頃。まだどう転ぶかわからないけど、"徴候があらわれてきたか?…"と思うような事がいくつか続くもの。

『生きるということは、〈予感〉と〈徴候〉から〈余韻〉に流れ去り〈索引〉に収まる、ある流れに身を浸すことだと考えてきた』(中井久夫)

〈索引〉について、『必ずしもことばではないが、過去の何かを引き出す手がかり、一つの世界を開く鍵』(中井久夫)

一年の内の予感と徴候、余韻と索引が、3年重なり、3年が3回重なり、10年の節目を迎え、同じめぐりの10年が重なって…。

3ヶ月ぶりに会った旧友が、「これは何かの暗示だと思っている」。今年に入って続いた出来事にそう感じたとか。「だから今年はもっと・・・」と今後の動きについて自分に言い聞かせるように語った。

徴候をとらえたら、自分にとってのテーマが見えてくる、はっきりしてくる。そこに意味があるのだと思う。そもそも、予感や徴候をとらえる発想、センスはいるけれど。

『微妙、微妙、最高の境地は何の形もない。神秘、神秘、最高の境地は何の音もしない』(孫子)

2023年3月3日(金) 晴

今朝も晴れ、気温は少し低いけど、寒さはあまり感じない。来週の予報 をみると19℃の日もある。いよいよ春本番。

- 学習の定着 -

学習の定着率が一番高いのは「教えること」という。科学的根拠はないらしいけど、「教える」本番ではなく、そのために準備する過程がそうさせるのではないか。

同じ範疇のことを繰り返し話すことも定着率を高める。人に助言する 仕事をしていて、相談者ごとにテーマはまったく違うけど、何か自分なら ではの仕事と人生を拓きたいという想いは共通するので、同じトピック を話すことも少なくない。 例えば、何らかの法則や、先達の金言など、知のフォルダーにいつか 記録した事項を一度、二度、三度と話すうちにすっかり記憶する。すっか り記録するということは、精神の新しい糧におさまったということ。

話すことだけなく、もちろん書くこともしかり。「話す」は脳、声&聴覚、「書く」は脳、手&視覚。話す方には大なり小なりリズム、音調があるから、脳にまた働きかけて、より定着率が高まるのではないか。

特に話す相手が目の前にいる方がそうなると思う。顔の表情などで相手の反応が見えるので、視覚のリズムも加わるから。話している内容に評価がついてくる、それがいいのかもしれない。

とはいえ、「話す」も「書く」も学習の定着に必須。それだけでなく、いわゆる「読み、書き、算盤」の3つに、「覚える、まとめる」の2つを加えた5つの知的活動が大事というから、何ごともバランス、相乗効果。

2023年3月6日(月) 晴

今日は「啓蟄」、空は晴れわたり、春の陽ざしが街に陽気をふりまき、誰にとっても良い日になりそうな日和。今週は一気に春めくよう。

- 本気 -

人間、本気になったら強い。自身に芽生えた問題意識、『意識が変わると行動が変わる』、おのずと行動をかえていく。

4日は「女性チャレンジ応援拠点」のトークセッションがあった。ゲストはチャレンジまもない方、5年目、10年目のお三方。活動内容は違っても、自分の想いをカタチにした人には共通点がある。

「これまでは勉強もあまりしなかったんですけど、自分でやろうと決めた時から、とにかく書いて、考えて、考えて、書いて…。前の友人たちからは、顔が変わったって言われるんですよ」。

もともと書く習慣があったわけではないらしい。でも自分で始めてから は、書いて、考えて、やって、また考えて、書いて。他のお二人も同じ。

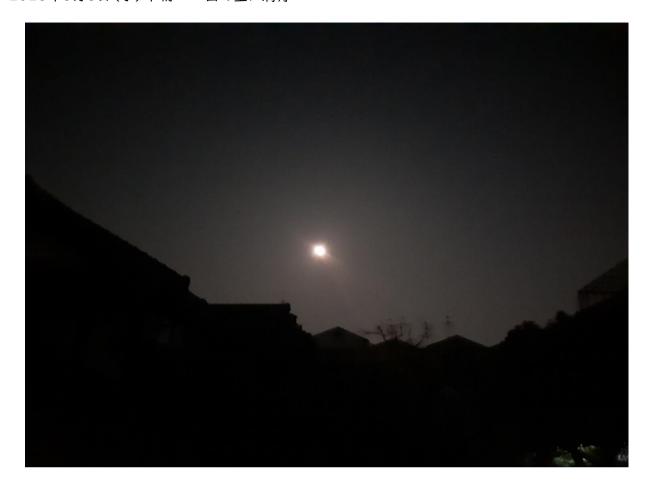
無理にそうするのではなく、自然にそうするようになるから、やはり真に 想うこと、願うこと、信じることをやってこそ、潜在能力も引き出される、顔 もかわってくる。

生活文化がかわる。簡単にいえば、価値観×思考様式×行動様式が変わってくる。個人的なエピソードでいえば、会社員時代は昼食をぬいて仕事するようなことは一回もない。

でも独立して事務所を設けてまもないある日、ちょっと大きな仕事を前に、その準備に昼食をとるのも惜しく、立ってパンを口にかけこんだ時には、われながら変われば変わるものだと感じた。

本気。会社員時代も本気だったつもり、でも今から思えば、やはり"つもり"だった。本気、「心からの気持ちや意志。真面目で偽りのない心持ち」と辞書にある。

2023年3月8日(水)早朝 西の空に満月



2023年3月8日(水) 晴

今日も晴天、ただし青空も陽ざしもスッキリしない。乾燥注意報が出るほど乾燥しているし、花粉はピークだし。気温は20℃の予報、梅は咲いたし、『桜はまだかいな』。

- 印象 -

駅の構内、車内にいろいろな広告が掲示されている。アート系のポスターも多い。美術館の特別展示ポスターは構成、デザイン、コピーも秀逸で目をひく。

『能の雅・エッセンス 狂言の妙・エスプリ』を見た時にはうなった、感 心した。地下鉄車内の吊り広告でみた。"雅をエッセンス、妙をエスプリ、なんとまぁ、すごい…"。

『たった一度の一生を 美にひれ伏す』とあったのは『堀文子展』のポスター。朝、事務所へ向かう途中の御堂筋線なんば駅ホーム壁面掲示されていたのを見た。

記憶より印象。「印象でなければ役に立たない」、そう言ったのは「岡潔」。たしかに、印象に残っているものは、その場面をいつでも、いま目の前のことのように感じられる。

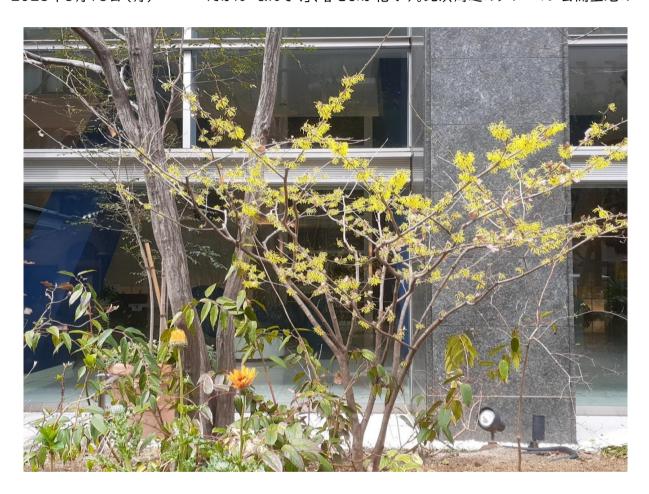
印象、「人間の心に対象が与える直接的な感じ。また、強く感じて忘れられないこと」。

印象に残るということは、対象が自身の内にある何かと共鳴したからだ。その時点ではピンとこなくても、数年後、十数年後、数十年後に、"そうか、だから残っていたんだ…"とわかる。

そういった意味では、自分を知る方法の一つになる。印象に残っていることをすべて書き出して、眺めていくと、今の自分が見えてくる。個人的にはLEE'Sブックレットがその役割を果たしたと思う、まだ先は続くけ

2023年3月13日(月)

たぶん「まんさく」、春をよぶ花です。北浜周辺のタワーマン公開空地の



2023年3月13日(月) 雨→晴

雷と風、雨で目が覚めた。午前5時すぎぐらいまで降って、家を出る時にはやんでいた。午後には晴れ間がのぞいてきそう。気温が平年並みに戻ったので、五感も落ち着く。

- しっくりくるワケ -

昨夜なにげなくNHKのカルチャーラジオを聴いた。たまに思い出したように聴いて、初めて知った講演者に、もっと早く知っていてもよさそうなのにと思うことがある。昨夜もそうだった。しっくりくる話をされる。

どういう人なのか検索してみたら、個人のサイトがあった。キャリアや著書のリストなどがあり、そして「尊敬する人」の名前があがっていた。 知った名、親しんだ名がいくつかある。しっくりくるワケか。

途中から聴いたので30分ぐらいしか聴けなかったが、印象に残ったこと一つ。人間は安全な場であれば身体感覚をとり戻す、という話。安全でないと、脳が常に外に向き身構え、自分の心身に気を向けられない、

この機会に著書を読んでみよう。図書館で検索すると、蔵書に何冊かあった。これはと思う2冊を予約した。

それにしても、なぜ今まで知らずに来たのだろう。情報経路を絞っているから、そのせいもあるか。少し風穴をあけた方がいいかもしれない。何より季節は春、『書を捨てよ町へ出よう』ならぬ「書は捨てず町へ出よう」!

2023年3月15日(水) 晴

昨日に続き晴天、空気がつめたいせいか、青空も陽ざしも映える。日 の出時間が早くなってきた。春分も近い。

- 自然 -

机にむかって右に窓がある。残念ながら隣のビルの壁しか見えないが、今朝はそこに陽があたりだした。室内が自然に明るくなる。この季節になってきたか、と気持ちが少し華やぐ。

今年の桜の開花は東京が一番のり。近畿も徐々に咲き始めれば、久しぶりの野宴が各地名所でくり広げられそう。あまり羽目を外すと、これからは自業自得。

桜は好きかと聞かれれば、なんとも答えようがない。桜にかぎらず花は そういう対象にならない気もする。白神山地の保護活動をしている人が インタビューにこたえて、言ったことを思い出す。

「この自然はあってしかるべきなもの、それを壊そうとするから、それはだめでしょう、ちゃんとこのままじゃないと、ということ」。

自然の中に花もあって、あってしかるべきもの。自然の恵み、一方で脅威もある。だから古代の人の自然崇拝もうまれ、文化遺産ともなってきた。祈祷はその最たるものか。

『あなたの子供には自然が足りない』という本がある。ちょっと拾い読みしただけだけど、その中にグレテル・アーリックという著述家の印象的な一文が紹介されていて、筆写した。

「川や雨粒の歴史をたどることは、体の中で高揚し落ち込む魂や心の歴史をたどることを同じだ。どちらをたどるにしても、私たちはいつも神性の上で道を探したり、つまずいたりしているのだから」。

2023年3月17日(金) 曇り

今日は曇り空、明日は雨の予報。風がなければ、外を歩くにはこの時季の雨は歓迎。明日は彼岸の入り、いよいよ春分。

- 問題意識 -

当年の特徴的なことはだいたい、この3月あたりから5,6月までの間に何かしら〈発端〉がある。そこから問題意識がうまれ、それにそって身も心も動き、後半を進んでいって、当然の特徴となる。

このところあらためて考え直していることがある。そのことが今年の特徴のきっかけになるかどうかは、まだわからないけど、仕事上少し時間をかけて考え、まとめる値打ちはある。

問題意識がめばえると、テーマが生まれる。それに時間と労力をかけることになる。ひらたくいえば新しい学びをして、大げさにいえば自己の刷新につながる。これが「オートポイエーシス」のような・・・。

長くやっていると、年をかさねると、いろんなことが少しずつわかってくる。といっても、それさえほんの米粒ぐらいしかわかっていないともわかってくる。たぶん後者の〈さとり〉の方が意義深いと思うけど。

ちなみに「オートポイエーシス」という言葉は1996年に知った。ギリシャ語の造語、オートは自己、ポイエーシスは製作で、「自己組織化」。 チリの生物学者二人がとなえた〈生命の有機構成〉説。

何かしら気づいた時、想いをいたした時に、それを自分の中でどう読み解くか、解釈するか。そこで重要なのが「知識」。あぁ、やっぱり知識は大事だ、多様な知識が…と、最近再認識中。

2023年3月20日(月) 晴れ

毎朝北浜駅に着いてエスカレーターでゆっくりと地上に上がながら、 少しずつ見えだすビル群の外壁で朝の空模様をはかる。東からまだ低 い朝陽が外壁の正面にあたる。今日もいい天気。

- 〈さとり〉履歴 -

前回書いたように、自分なりにわかったことがいくつかある。30年以上自分で仕事を続けてきたわけだから、それなりに〈こたえ〉や〈さとり〉があって当然といえば当然。

それらを話したり、書いたりしてきているけど、この機会にとりまとめておこうと思った。自分のためになるし、それらのいくつかでも誰かの役に立つかもしれない、例えば自分で始めて間もない人とかに。

さて、〈こたえ〉や〈さとり〉は結果として得られるものだから、まずはそれに関わる出来事や事象や状況などがあっての話。それを察知、感知、感受して、考えさせられることになり、〈こたえ〉や〈さとり〉を得て、自己認識をバージョンアップさせる。それをくり返していく。

記録していなくてもずっと記憶していること、要するに印象として残っていて、認識を新たにしたことが、その人の〈こたえ〉や〈さとり〉にあたるだろうと思う。それらを時系列に書いていこう。

【A.1991年から1994年】A-1「アートなセンス」。独立して最初の 〈さとり〉は小さなものだった。でも個人的には大きかった。同じ社会に 住んでいても、〈住む世界〉が違うと、評価も真逆になることを知った。 世の中に少し開眼したのだった。(次回へ続く)

2023年3月20日(月)

午前7時20分頃、毎朝地上に向いながら見るビル群にあたる朝陽



2023年3月22日(水) 晴れ

今日の大阪は26℃まで上がるらしい。過去最速の夏日だとか。これは カラダにこたえる絶対に。できれば静かにしておきたい、そうもいかない けど。今日から旧閏二月。

- A-I「アートなセンス」 -

今おもえば独立したての頃は何もわかっていなかった。なにより自分 自身をわかっていなかった。なぜそうだったんだろうと考えた時、考えて みれば他人とあまり比較して生きてこなかったと思った。

どこかで自分をよしとしていて、昔の言い方なら「自分をもってる」、今の言い方なら「自己肯定感が高い」ということになるか。でも、まだまだ未熟な年頃であるから、傲慢だったとも言える。

独立し矢面にたって仕事するようなったから、よくもわるくも他者からフィードバックを受け、少しずつ世の中がわかってきた。LYK流「パーソナル・アシスタント」も、誰でもパッとわかるものと思っていた、当初は。

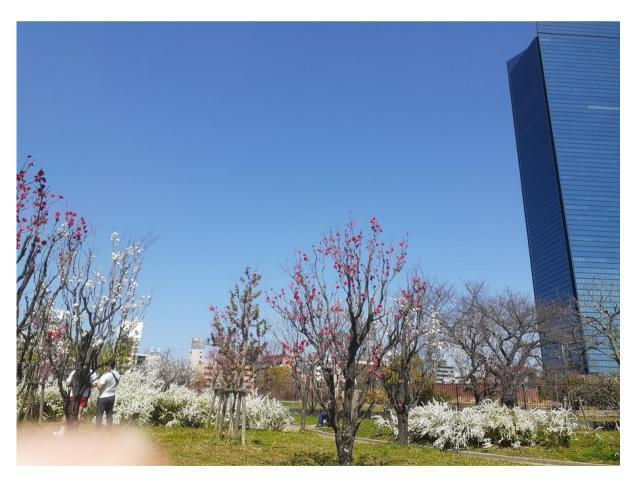
「パーソナル・アシスタント、何ですかそれ?」。そこで説明することになるが、話しながら、不本意な気分になった。ムキになって話している自分を感じたからだ。

「へえ、それで食べていけるんですか?」、時によってはそう返してくる人もいた。多くを語ってもピンときてもらえない。何度かそういうことが続いて、"これは…?"怪訝に思い始めた頃、ようやく出会った一人。

「おもしろいですね、それ」。初めて聞く言葉、本当にホッとした。多くを語らなくてもコンセプトをつかんでくれた。その人はインダストリアル・デザイナー。アートなセンスを要するデザイナー。

デザイナーに限らず、アートなセンスのある人とそうでない人。会う人が多くなるにつれ、その差はあるなぁと感じる機会が増えた。その一番初めのこの場面は今もはっきり覚えている。

正午すぎ、大阪城公園。桜も咲き始めたので大阪城公園まで散歩、桃も開花





2023年3月24日(金) 曇り

春分がすぎ、朝6時になると電灯なしで仕度ができる。早起きした感がちょっとなくなる。梅はすっかり散り、桜はもうすぐ満開。

− A-2 勉強法にみえるもの①−

独立当初は後になっておもえば恵まれていた。かつての勤め先が顧問先にと声をかけてくれたから、安定したすべりだしだった。診断士の勉強をしようという気にもなった。

なぜ診断士だったかは、『LEE'Sについて』に書いているのでさておき、一次、二次の受験勉強、そして三次の実習試験を通してわかったこ

勉強法にみえるもの。いっせいに同じようなことをやると違いがよくわかる。たいていは受験対策校の〈マニュアル〉どおりに勉強する。中には 出題予想と模範解答を丸暗記する人もいる。

これにはおどろいた。出題予想が的中したとしても、同じ解答が多ければ、合格になるかしら。当時は一次も二次も記述試験だった。個人的には、丸暗記するのはむしろリスキーに思えた。

それ以上に丸暗記する気にならなかった。そういった方法自体がたぶん、自分に合っていなかった。

受講対策校に通い始めてしばらく経った頃、午前午後の集中講義の日、ランチ時、講師と受講者数人の輪から少し離れて一人たべていたら、「一緒に」と声をかけられた。

輪にはいって、少しすると講師が、「実は、この人はやく辞めてくれないかなぁ、と思っていたんですよ」とこちらを見て言う。"えっ?! どういうこ

「講義していて、他の人は皆ノートをとっているのに、ノートをとらずに、こちらの顔をじっと睨みつけるように見て、やりにくい、やりにくい」。

全く思いも寄らない指摘だったが、よく言ってくれたと思う。こうして今もはっきり覚えているし、ずっと後になって脳科学や認知科学の知識に ふれて、なぜそうなるかを解釈できるようになったから。

2023年3月26日(日)

風がなかったので、雨の中近所の公園へ。誰もいなくて、桜満喫



2023年3月27日(月) 晴れ

昨日日曜は一日雨、今日は晴れ。花粉が舞い散るはず。桜は満開、桃も咲いて、春爛漫。

- A-2 勉強法にみえるもの②-

少々難関の試験にチャレンジすると、合格までにはそれなりの時間がかかる。自分なりに工夫して勉強するようになる。受験対策校がグループ学習をとりいれていて、勉強のためにつくった資料も相互に交換するよう進めていた。おかげで大人の勉強法の個人差を目のあたりにでき

この時、他のメンバーからもらった資料は結局どれも活用させてはもらわなかった。こちらから渡した資料も、みんな感激して喜んでくれたけど、たぶんあまり役には立たなかったのではないか。

膨大な中小企業施策の全体像を自分なりにつかみたくて、とった方法は、図形ソフトをつかった体系図づくりだった。施策一覧のぶ厚いブックをたどりながら、何がどれとつながっているのか、平面にプロットしてい

完成にどのぐらい時間がかかったかは覚えていないけど、A4 用紙横 長余白も最少で、小さな文字の入った角や丸やひし形の図形と線が一 面びっしくを描きこまれたものが出来上がった。たぶん I 枚にはおさまら ず、2枚になった。

完成したものは一見すると、たしかにすごい。メンバーの一人は、「おお、すごい、いいものもらった!」と言ってくれたけど、たぶん落ち着いて見てみると、ちょっとしたチェックにはなっても、彼の頭の中で全体像は形成されないんじゃないか。

完成した図そのものにはあまり意味がない。これつくる過程に意味がある。施策をプロットしていくうちに、頭の中に全体像が少しずつ積み上がってくる。そして感覚的につかまえられていく。

2023年3月28日(火)

ギャラリー島田『こころを観る 時代を観る -中井久夫さんを偲んで』

みすず書房のメルマガで知ったこの展示。神戸三ノ宮から歩いて15 分ほど、ハンター坂ぞいにある素敵なギャラリー。

早めに着いてしまった。時間つぶしのできるとろは…とあたりを見回したら、背の高いベル塔が見えた。手前に桜の木もある。ミッション系の小学校かと思ったら、教会だった。

それでもまだオープン時間までには15分ほどある。外で展示の案内版やギャラリーの外観を撮っていたら、誰かが出てきて、地下への階段に目をやりながら、「もう入れると思いますよ、誰かいますから」。

年齢は70代後半? 背が高く、パッとみた感じも大きな人。イエローベージュのジャケットに同じ色合いのパンツ、白っぽいセーターの首回りにはパステルグリーンに、たしかピンクやイエローも入ったスカーフがまかれていて、これまたベージュぽいハンティングのような帽子をかぶった紳士然とした、でも帽子のしたからこちらに向ける目は大きく鋭い。

印象から書くと、こんな感じで、話しぶりからして、たぶんこのギャラリーのオーナーからそう声をかけてもらい、地下の展示フロアーへ下りて、しばらく外で待っていたら、わかい男性が、「どうぞ」。この日一番のり。

中井先生自筆の描画、原稿、手紙、絵葉書などが展示されていた。熱心に観ているからか、さきほどのスタッフの若い男性が展示の説明などをしてくれた。わたしからも中井先生への想いを話した。

人も増えてきたので、なが居はしなかった。でも、なが居した気がする。

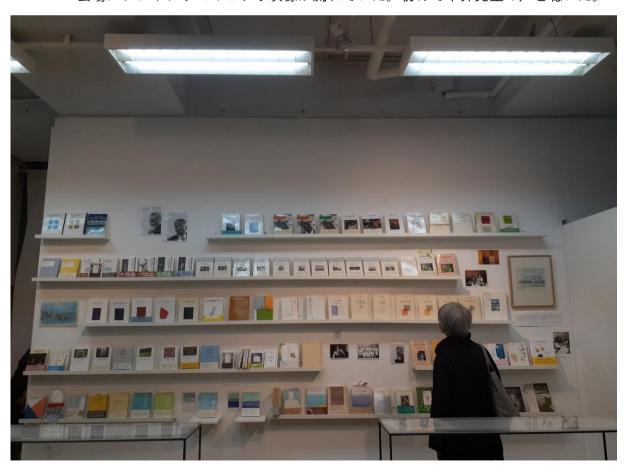
https://gallery-shimada.com/







会場にシンポジウムのビデオ映像が流れていた。初めて中井先生の声を聴いた。



leeslee 13/16

このギャラリーのオーナーも対談に加わっているという著書を買った。





月曜から晴れが続く。桜満開、もう散り始めた木もあって、そういえば、 「通り抜け」はどうなのかしら。あとで日程をチェックしてみよう。

- A-2 勉強法にみえるもの③-

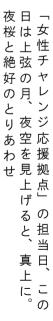
勉強していた当時は勉強法の個人差にただ感心していただけで、その先をあまり考えることはできなかった。自分のやり方がそれなりに独自なんだと気づいた程度だった。

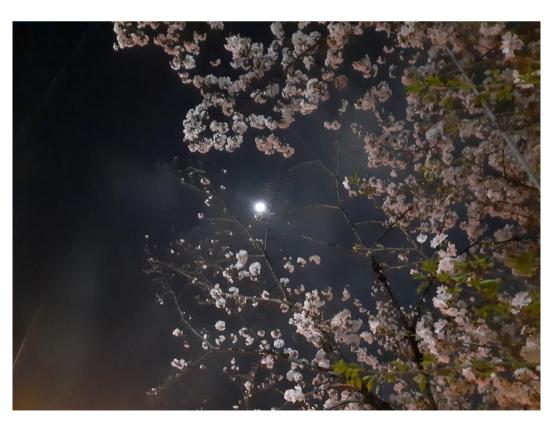
10年ぐらいが過ぎて、公私ともに知り合う人の数が増え、さまざまに交流し、個人的にもいろいろと学習をかさねるうち、自分の中で仮説ができてきた。思考のドライビングは誰も一様ではなく、いくつかのパターンに分けられるのではないか。

リーズの第2弾冊子の『自業のすすめ』に載せて、2019年4月臨時 リーズレター『新しい時代の始まりに』にも紹介した「思考の型」がそれ。3つに類型して特徴づけた。このことについて何度となく仕事上でも 話していて、「ぜひ使わせて」といった同業も何人かいる。

内容はここでは省くとして、その「思考の型」が勉強法に端的に現れ、 その勉強法にその人ならではの仕事の流儀の芽がある。同業他者とは 異質なコミュニケーション能力やアプトプットスタイルなどに勉強法の痕 跡が現れる、そういうものではないかとみている。

自分なりこの仮説は仕事上でおのずと検証をかさねることになる。今のところはおおむね言えている。これからも観察を続けて、オリジナリティーを探求する人の役に立てるとする。





2023年3月31日(金) 曇→晴

朝は曇り空、午後からは晴れて、そのまま明日もよい天気のよう。明日大阪の最高気温は25℃になる予報、新年度のスタート、桜の下も街は賑わいそう。

- A-3 セレンディピティー -

「思わぬものを偶然発見する能力、Serendipity セレンディピティー」。この言葉を知ったのは2008年8月27日の新聞上だった。物理的よりも精神的なものの気づきや直観をさしているのではないかと

だから、"あれが、そうだった…"と思い返した。1994年の晩秋の頃だったか、ある瞬間に、"自分にもっと試練を与えなければ…、そうだ、事務所を持とう!"。

独立して早々にかつての勤め先から声がかかり、安定したカタチで仕事を続けてきて3年、このままではダメだとふと思った。

もともとそういう性質がある。ちょっと不安定な方が緊張感がでる。頭でそう考えたわけではないけど、そんな感覚があった会社員時代から。

それにしても、なぜまた"事務所を持とう!"になったか。ホームオフィスで始めたら、段階的にはそうなるかもしれないけど、「パーソナル・アシスタント、なんですか、それ?」って言われる方が多いのに、よくもまた「事務所」がふってわいたもの。

とはいえ、当時のその瞬間のことは今も感覚としてよく覚えている。ぼんやりと未来の様子が一塊であるような心象風景、心情には、"間違いなく想像を絶するようなことに遭う、でも何かを獲得するに違いない"という確信めいたものを持った。

こうなったら人間つよい。事務所を持つ流れに身も心も動き、実際 1995年3月に事務所を設けた。今の段階ではっきり言いきれる、 1994年晩秋のあの確信は正しかった。